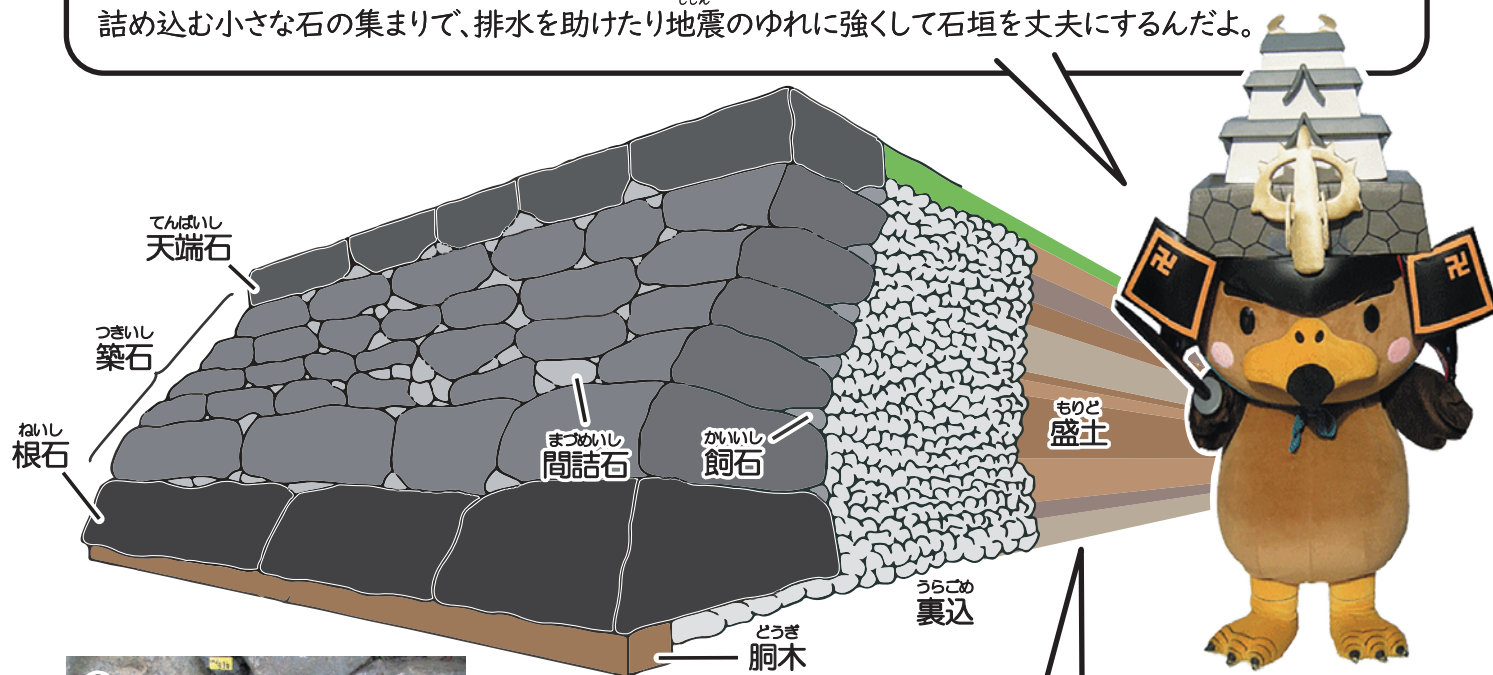


石垣はどのように作られているのでしょうか

江戸時代の人々が石垣を築く時は、^{きず} 基礎^{きそ}を作ってから石を積んだんだよ(写真⑧)。築石の中で一番下になる石を根石、一番上を天端石というんだ。築石と築石のすきまにつめるのが間詰石、築石をすえるときに横や後ろにはさんで石の角度を調整する石を飼石というんだよ。裏込は、盛土と築石の間に詰め込む小さな石の集まりで、排水を助けたり地震のゆれに強くして石垣を丈夫にするんだよ。



積直す2,185石のうち、大きいものは長さ約2m・重さ約6tもあるんだ。約400年前に弘前城をつくった時、石垣の石のほとんどは、岩木山の麓から運ばれてきているんだ。「令和の石垣修理」でも、新しい石には岩木山麓のものを使っているんだよ。

石垣修理のスケジュール

石垣を解体した後、石垣の積直しを行い、その後に天守を元の位置に戻します。

[平成27年度] ◆8月16日～10月24日 天守曳家(写真⑨)

[平成28年度] ◆天守を移動先で公開 ◆石垣解体工事着手

石垣を解体する前に、石に番号付けを行い記録を採取

[平成29年度] ◆4月9日 石垣解体始め式

第1石目を解体して石垣解体工事が本格化

[平成30年度] 2,172個の石を解体完了

[令和元年度] 積直し方法の検討・設計

[令和2～6年度] 修理範囲北側の13石を追加で解体、解体石数2,185個

石垣積直し工事(写真⑩)

[令和8年度] 天守を元の位置に移動予定



弘前城本丸石垣修理

ひろさきじょう ほんまるいしがきしゅうり

弘前城本丸のふくらんだ石垣を直すため、約100年ぶりに天守を曳家してから、石垣を取り外して元々の形に積直す工事を進めています。

たか丸くん
(石垣修理バージョン)

ひろさき応援寄附金(ふるさと納税)

【特別コース】弘前城天守がお引越し！世紀の石垣大修理～石垣普請応援コース～

詳しくはこちら→<https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/hitokuchijyosyu.html>

【発行】弘前市公園緑地課弘前城整備活用推進室 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1

メールアドレス: kouen@city.hirosaki.lg.jp TEL: 0172-33-8739 FAX: 0172-33-8799 【令和6年(2024)8月1日発行】

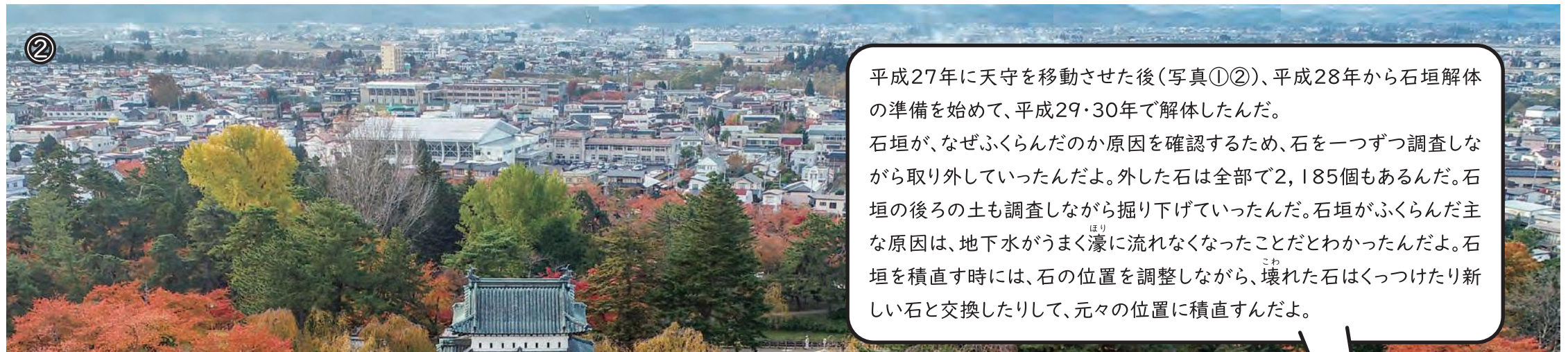
弘前市 ふるさと納税

検索





平成26年(2014)4月撮影



②

平成27年に天守を移動させた後(写真①②)、平成28年から石垣解体の準備を始めて、平成29・30年で解体したんだ。
石垣が、なぜふくらんだのか原因を確認するため、石を一つずつ調査しながら取り外していったんだよ。外した石は全部で2,185個もあるんだ。石垣の後ろの土も調査しながら掘り下げていったんだ。石垣がふくらんだ主な原因は、地下水がうまく濠に流れなくなったことだとわかったんだよ。石垣を積直す時には、石の位置を調整しながら、壊れた石はくっつけたり新しい石と交換したりして、元々の位置に積直すんだよ。



移動

平成30年(2018)11月撮影

石垣の解体中には、新たな発見があったんだよ。天守の約100m北側では、本丸側に延びる埋没石垣(写真③)のほか、排水跡(写真④)や井戸跡(写真⑤)が見つかった。排水跡は、約300年前の弘前藩4代藩主・津軽信政の時代につくられたもので、埋没石垣と井戸跡はそれよりも古く、約350~400年前につくられたものなんだよ。埋没石垣は、弘前城ができて間もない頃の石垣だけど、約300年前に役目を終えて地中に埋められていたんだよ。これらは弘前城跡にとってとても重要な発見なので、そのまま保存することにしたんだ。



③

埋没石垣



⑥

明治29年の石垣崩落位置
弘前図書館蔵



⑦

内濠で見つかった帯コンクリート



天守近くの石垣は、明治時代に2度も崩れているんだ(写真⑥)。その後大正4年(1915)に石垣を積直す際には、明治29年(1896)の崩落位置を中心にコンクリートを使い、もう崩れないように修理したんだ(写真⑦)。



④

排水跡



⑤

井戸跡